

ホームレス状態を生み出さない社会の扉を開きたい
困窮者の就労・生活支援は地域の活性化にもつながる



特定非営利活動法人Homedoor 理事長
川口加奈さん

聞き手 高田英弦（医療記者）

大阪はパリにちよっぴり似ている。御堂筋はシャンゼリゼ通り、中之島はシテ島に相当。初代通天閣はエッフェル塔とエトワール凱旋門を模して設計された。近年市街に広がっているシアサイクル「HUBCani（ハブチャリ）」は、花の都の「Velo」（ヴェリブ）をほつぷつさせる。もっともハブチャリは公共事業ではない。職や住まいを失った生活困窮者を手助けする特定非営利活動法人Homedoor（ホームドア）が展開する就労支援事業。23歳の社会活動家、なにわジェンヌの川口加奈さんが主導する。今月は彼女の歩みと取り組み、心意気を紹介する。

「誰もが野宿せず暮らせる世の中に変えていきたい」

—いつごろから生活困窮者の支援にかかり始めたのですか。

川口 中学2年生の冬、14歳になった直後からです。ミッションスクールに通い、学校YWC A部に属していました。部活動の一環で大阪市西成区の寄せ場「釜ヶ崎」を初めて訪れ、路上生活者への炊き出し奉仕活動に参加。ホームレス状態に至る個人的事情だけ

でなく社会的背景にも強い関心を抱き、誰もが野宿せずに暮らせる世の中に変えていきたいと痛感しました。

高校を卒業するまで炊き出し、支援物資集めなどの手伝いを続けました。また路上生活者への偏見を解消すべく、何度も校内外で講演会やワークショップを催しました。しかし活動経験が増すにつれて無力感にさいなまれ、もどかしさが募るばかり。過酷な路上生活に苦しむ人が増えることはあっても、減ることはなかったからです。

PROFILE

●かわぐち・かな●

1991年、大阪府にて出生。中学2年時に路上生活者への支援活動に参加。以来炊き出しや支援物資集めのボランティア活動を続ける傍ら、ホームレス問題に関する講演会・ワークショップを多数開催。2010年、大阪市立大学経済学部2年時に任意団体Homedoorを設立（11年10月、NPO法人格認証）。在学中に大学生OF THE YEAR 2011グランプリなどを受賞。12年には世界経済フォーラムのグローバルシェイパーズコミュニティ大阪メンバーに選出された。

おにぎりを配れば喜ばれ、空腹を満たしてもらえる。実に有意義と思う。でも毎日配れない。仮に1日3食配れたら、ホームレス状態から抜け出せる人は増えるだろうか。あれこれ自問自答するうち、対症的な活動にとどまらず、現状の根本的改善につながる方策を考案し、実行していかなければ

シェアサイクル「HUBchari」事業の概要

●STAFF / 運営スタッフ

- ▽ホームレス状態にある人、生活保護を受けている人。現在約20人が週1～5日勤務(時間制シフト勤務)
- ▽業務内容は修理(協賛・寄付による提供自転車の整備、放置自転車の修理)、接客(HUBchariの貸出・返却の受け付け、会計、清掃)

●BICYCLE / 自転車

20インチと26インチ(生活用・競技用自転車のハイブリット型)新古車を中心に約100台

●PLACE / 貸出・返却ポート

商業ビル、商店、ホテルの軒先・隣接地に9カ所(月額会員は提携先が管理・運営する11カ所も利用可能)

●FEE SCALE / 料金システム

▽1日利用:700円/日+保証金1,000円(自転車返却→返金)▽1回利用:100円/時+保証金1,000円(同)▽月額会員:登録料525円(初回のみ)+基本料金980円/月+利用料金(最初の1時間:無料、その後100円/時)



●HISTORY / 沿革

- 2010年11月 事業化を決定
- 2011年7月 実証実験を実施
- 10月 プレオープン
- 2012年4月 HUBchariオープン
- 2014年2月 一般社団法人水都大阪パートナーズ コイデコ事業部と提携



●SOCIAL FUNCTION / 社会的機能

- ▽中間的就労の場として機能
- ▽これまでに56人が就労し、6～12カ月間の「就労リハビリ」を経て25人が定職を見つけた

釜ヶ崎のカフェに協力してもらい、モーニング喫茶の運営を通じて来店する客から困窮者ニーズを聴き取りました。野宿者の多い地区では、食料・日用品を配りながら健康状態などを尋ね歩く「夜回り」を重ね、職歴や技能を尋ねました。街に出ると雑多な声や事象も耳目に触れる。おのずと他の都市問題や一般生活者の関心にも注意を払うようになりました。

調査を通じ、ホームレス状態にある人や生活保護を受けている人の多くが高齢、男性、独居と判明。空き缶・廃品回収業者が7割を占め、自転車修理を得意とする人が多い反面、他者とのコミュニケーションを苦手とする人が少なくないことも分かりました。

就労意欲が高く仕事を探している、自立を望んでいる人が大半でした。

やがて中心市街で長年問題になっていく、自転車の駐輪違反・放置対策も念頭に置いて就労支援事業を構想。一

ばならないと奮起しました。

困窮者の職能・生活実態を調査し就労支援事業を構想

― 妙案はすぐに得られましたか。

川口 大学に進み、1年生のときはバスケットボールとジャズ、国際協力のサークル活動に参加し、それぞれの仲間と楽しく過ごしながら視野を広げました。ただ頭の片隅には絶えずホームレスの問題があり、何をどう取り組んでいくかを考えていました。試行錯誤を繰り返して、答えを見いだせない日々。そんな心の葛藤を高校時代からの友人に打ち明けると「一緒に考えよう」と、同志を連れてきてくれました。2年生になった2010(平成22)年4月、現NPO法人の前身となる任意団体 HomeDoor を立ち上げることができました。

初めに取り組んだのは実態調査。

方で社会起業塾に参加し、既存事業との競合を避けたり実証実験を試みたりしながら事業計画を練り上げていきました。満を持して2012(平成24)年4月、シェアサイクル「ハブチャリ」が生まれました。

ハブチャリの就労者56人中 25人が清掃などの定職得る

—ハブチャリの仕組みと業務内容、運営実績を教えてください。

川口 ハブチャリは大阪市内に設けた貸出・返却ポートであれば、どこで借りてもどこで返してもいい貸し自転車です。ポートは当初3カ所でしたが、今は9カ所あります。月額会員は業務提携先のポート11カ所も利用できます。1回利用は1時間100円、1日利用は700円(いずれも保証金1000円。自転車返却時に返金)、月額会員は登録料525円、基本料金

980円で最初の1時間は無料、その後は1時間100円。詳細はホームページ(<http://www.hubchari.com/howto/>)などで案内しています。会社の営業マンや観光客を中心に1日20人ほど、月400〜600人に利用されています。

ハブチャリの業務は修理部門と接客部門から成ります。運営スタッフは個

人応募のほか、大阪市の福祉課、他のNPO団体から紹介を受けて確保しています。多くが路上での暮らしを経験した生活保護受給者ですが、野宿経験のない生保受給者や、現にホームレス状態にある方もいます。

配属先や勤務日数・時間は応募者の希望や事情に応じて決定。時間制シフト勤務を採用しているので柔軟に調整

Homedorの事業内容

就労支援事業

- HUBchari (シェアサイクル)
- HUBgasa (ビニール傘リサイクル)
- 中間的就労研究所

生活支援事業

- CHANGE (生活・就労支援講座)
- ホームパト (夜回り活動)

啓発活動

- 釜歩き (案内人と釜ヶ崎を歩きながら貧困とホームレス状態について学ぶ)
- 釜Meets (釜歩き+ワークショップ・炊き出しに参加)
- 講演・ワークショップ

HCネット*
事務局



★一般社団法人:ホームレス問題の授業づくり全国ネット



傘リサイクルや生活支援・啓発活動も積極的に展開中

—ハブチャリ以外にどのような事業を展開していますか。

川口 新たな就労支援事業として13年6月から「HUBgasa(ハブ傘)」を始めました。協力企業から不要なビニール傘を無償で譲り受け、スタッフが再利用の可否を判断。使えそうな傘は汚れを落したり簡単な補修を加えたり



Homedoor事務所は10坪足らず。事業用の資材・食材、調理器具などを多数備えているが、窮屈さを感じさせない。スタッフに「収納・整理の達人」あり!?

し、ホームドアの活動趣旨に賛同してくださった美容院などに1本1000円で買い取っていただいています。ハブチャリの一部ポートでも販売しています。

日本にはさほど傷んでいないのに置き去りにされたり捨てられたりするビニール傘がそこかしこにあり、その数は年間1億3000万本とも言われています。この遊休資材をリユース、リメイクすることは資源節約、環境保護にもつながると思います。

生活支援事業としては「CHANGE(チェンジ)」と「ホムパト」に取り組んでいます。前者は就労意欲や自尊心を持って家に引きこもり、孤立した状態で暮らしている生活保護受給者を対象とするプログラム。生活習慣改善に向けた日常支援講座と、就労支援講座に大別されます。それぞれ定員15人で毎週1回、計12回の各講座を随時開いています。内容は実にさまざま

ま。集団での講座受講と面談による個別支援を組み合わせ、これまでに約60人に対し「現状チェンジ」の後押しをさせてもらいました。

後者は「ホームドアパトロール」の略称で、いわゆる「夜回り」の活動。通常は月1回午後9時から11時半にかけて、寒冷期は月2回実施しています。大阪の梅田駅周辺など3コースを設定し、事務局やハブチャリのスタッフ、学生・社会人ボランティアなど10人前後を各コースに班分けし、路上生活者に声を掛けながら弁当や生活用品を届けています。弁当は毎回60〜80食、出発直前にスタッフが手分けして調理。できるだけ温かい状態で食べてもらえるよう努めています。

このほか、路上生活者や生活保護受給者への偏見解消、襲撃事件根絶、心の貧困化予防を目指し、釜ヶ崎での体験学習を柱とする啓発活動を頻繁に行っています。講演・ワークショップ

活動にも力を入れ、昨年は80カ所以上で話をさせていただきました。

目指すはホームレス状態の「入り口封じ」策の創出!

— 大阪市の路上生活者は2179人(厚生労働省2012年調査)、生活保護受給人員は15万453人、保護率は56・1%(大阪市14年2月集計)。都市別に見ると最も厳しい状況ですが、今後の抱負を聞かせてください。

川口 ホームドアは「ホームレス状態を生み出さないニホンに」をスローガンとし、従来なかった就労支援事業を企画し、生活支援・啓発とともに展開してきました。それらはホームレスや生活保護受給の状態から抜け出すのを助ける、いわば「出口づくり」の活動です。今後はそうした状態になるのを阻む「入り口封じ」の柱となる事業を考案し、実践していきたい。

具体案はありませんが、イメージしているのはシェルターにセーフティネット機能を持たせ、入居者に対してホームレス状態になる前の段階から生活や就労をバックアップしていく事業。米国ニューヨークのホームレス支援団体「コモンランド」などが運営

する先進的な長期滞在型シェルターを参考にし、研究・思案を続けているところです。

誰もが自分なりの居場所を見つけて他者となることができ、失敗しても何度でもやり直せる社会に変えていく力になりたいと考えています。



Homedoor事務局長の松本浩美さん(右下)とスタッフ、インターンの皆さん。夜回りで配る弁当作りも含め、何でもこなすガッツとスマイルが持ち味

●ホームページ <http://www.homedoor.org/>